

津麦ニュース 平成30年産

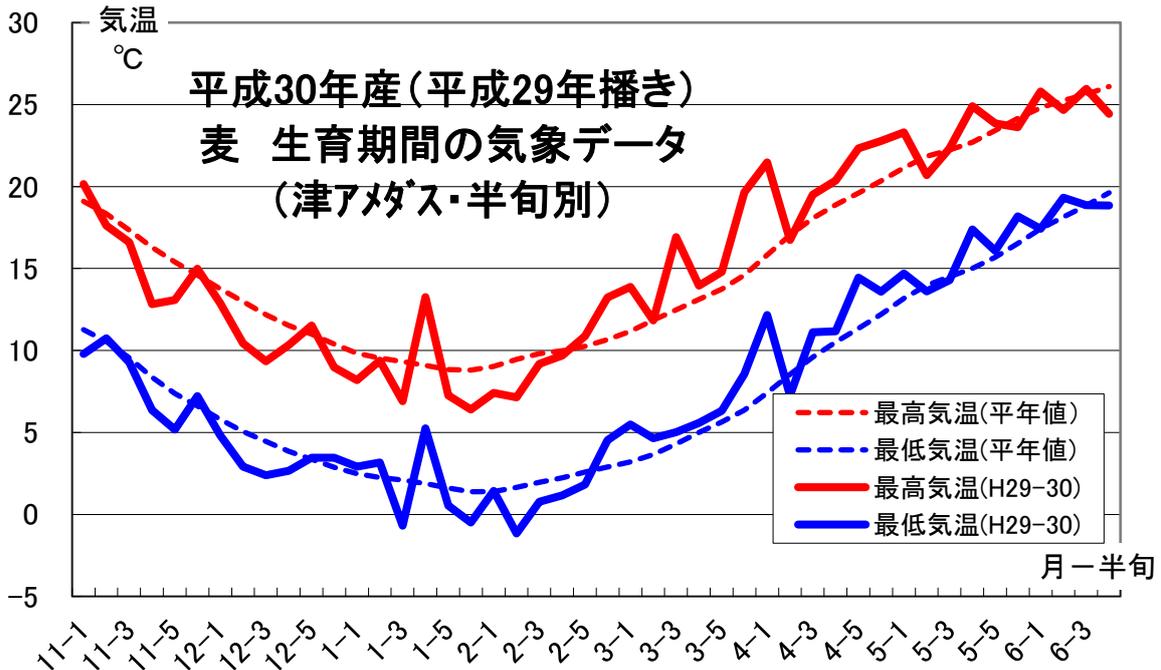
作柄報告版

平成30年10月10日発行
津地域農業改良普及センター
電話:059-223-5103

<気象経過>

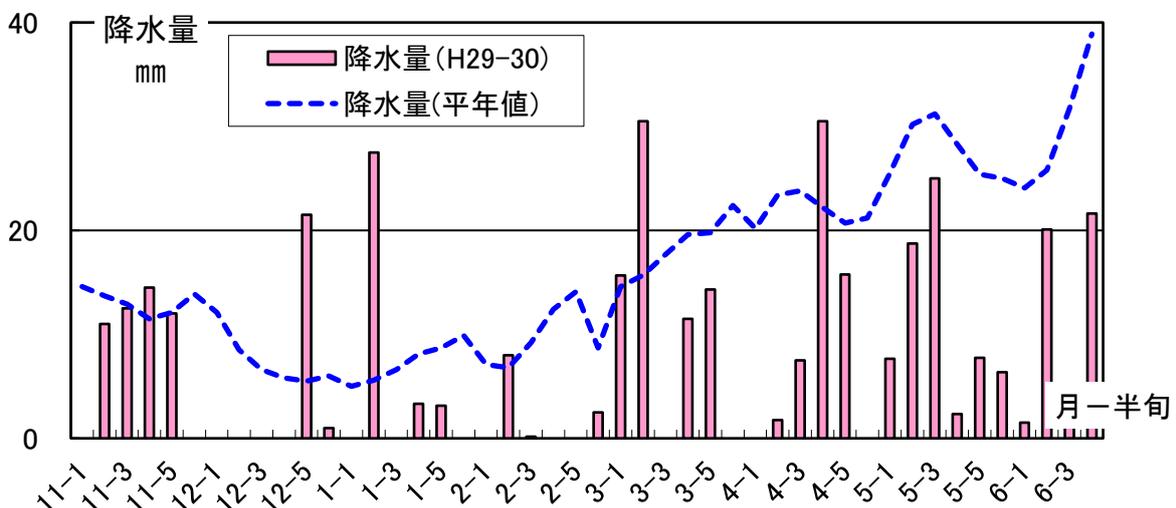
○気温

2月下旬までかなり低温傾向で推移しましたが、2月下旬以降は、高温で推移しました。



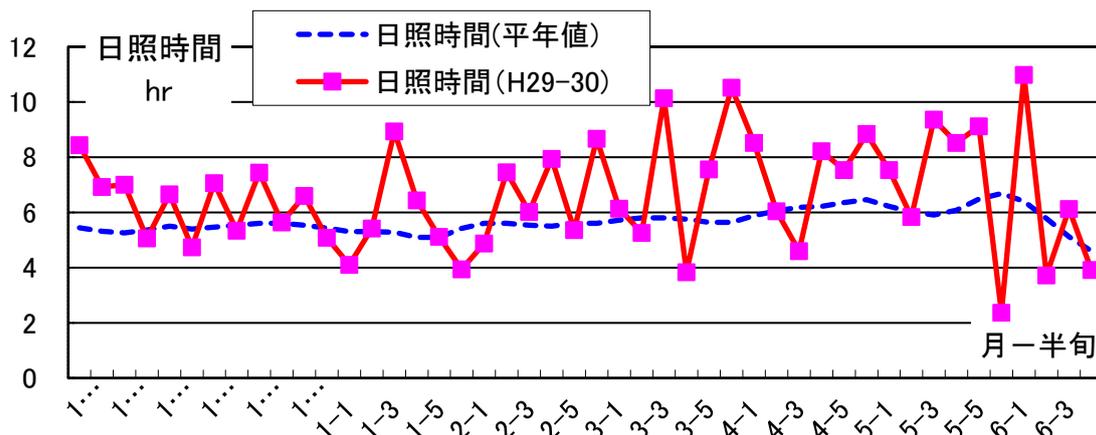
○降水量

11月は定期的に降雨がありましたが、11月末から12月中旬にかけて雨が降りませんでした。12月末、1月上旬、3月上旬、4月中旬にまとまった降雨があり、平年より多くなりましたが、全体的な量は、平年に比べ半分程となりました。



○日照時間

降水量が少なかったことから、日照時間は平年と比べ15%程度長くなりました。



<生育の概況>

冬季の気温が平年をかなり下回ったことと少雨により生育は停滞し、特に11月下旬以降の播種で生育の遅れは顕著となりました。その後、2月第5半旬以降の気温は平年を上回ったことで、生育が進み出穂期、開花期は平年並みにまで回復しました。

あやひかりの収量は収量が多かった前年をやや上回りました。

J A津安芸管内で、あやひかりへの切り替えが進んだこと、基肥一発肥料の施用と積極的な追肥によって、単位面積当たりの穂数が多くまた千粒重も大きくなったことから、平年以上の収量が得られたものと考えています。

品種名	H30年産単収 kg/10a(対前年%)	1等麦比率%
あやひかり	313(102)	57
ニシノカオリ	227(88)	0

○平成30年産(平成29年播)小麦生育基準ほの成熟期調査

地区	品種	播種日	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/m ²)	出穂期	成熟期
芸濃町 棕本	あやひかり	11月27日	78.0	8.0	465	4月19日	6月11日
安濃町 田端上野		11月10日	89.6	9.7	530	4月12日	6月7日
一志町 大仰		11月5日	91.3	10.0	458	4月9日	5月29日
白山町 川口		11月7日	88.6	9.7	457	4月11日	6月4日

○平成30年産小麦生育基準ほの収量調査結果

地区	品種	粗麦重(kg/10a)	千粒重	タンパク含有量(%)
芸濃町 棕本	あやひかり	597.9	41.1	9.3
安濃町 田端上野		631.1	42.5	9.3
一志町 大仰		601.4	42.8	8.9
白山町 川口		535.5	44.9	9.3

※わら重、粗麦重、千粒重は水分12.5%、タンパク含有量は13.5%に換算した値

<H31産以降の対策>

1 土づくり、ほ場準備

麦作ほ場は可能な限り団地化、連担化し、稲収穫後、できるだけ早期にほ場内の明渠、弾丸暗渠の設置、浅耕を行きましょう。

○排水対策……排水溝の適切な設置、弾丸暗渠の設置等

○地力向上……堆肥や土壌改良資材の施用(小麦の生育好適pH6.0～6.5)

2 追肥

小麦の収量確保には、穂数の確保と粒の充実が必要で、分けつ期に十分な栄養を与えることが重要です。肥切れは収量低下の要因となる一方で、過剰になると倒伏等の原因となります。つなぎ肥を含め、追肥は生育状況を注視して行いましょう。

○あやひかりは、タンパク含有量が高くなりすぎること避けるため、出穂期以降の追肥はやめましょう。

○ニシノカオリは、タンパク含有量を確保するため、開花期に追肥(N 3～4kg程度)を行いましょう。

3 麦踏み

○3葉期～茎立ち期までのほ場がよく乾いているときに実施しましょう。2～3回実施すると効果的です。

4 防除

○赤かび病は開花期からの高温・多湿条件下で発生しやすくなりますので、開花期の適期防除に努めましょう。

5 収穫

収穫作業を開始する目安は、穀粒水分が28%以下となってからです。しかし、成熟期後、雨にあたると穂発芽が発生したり、外観も悪化して大きく品質を低下させます。小麦の水分低下は、乾燥した好天時には5%以上急激に低下することがあります。一方、曇天日にはほとんど減少しません。

○収穫の準備は早めに行い、天気予報や生育状況を注視して、適期収穫に努めましょう。